
異世界での体験記、あるいは...？

トーコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界での体験記、あるいは…？

【NZコード】

N4426E

【作者名】 トーロ

【あらすじ】

異世界へと落ちた主人公と、周りの人々のお話。

1・異世界での体験記、あるいは…？

世の中には、注目される人間とそうでない人間、又はその中間に立つ者で構成されている。

『異世界での体験記、あるいは…？』

例えばそう、我が母国・日本の総理や大臣などは明らかに『注目される側』の人間だ。ひとつひとつの動作が常に話題となり、休まる事をしらない。こうして淡々と自分の意見を述べている私はどちらかと言うと『中間に立つ側』の人間である。まあ、その理由を簡単に説明するなら。

私以外の家族全員が、特に際立つ『注目される側』の人々だからだ。

簡単に皆を紹介すると。一家の大黒柱たる父は、世界的大財閥の社長にして日本では裏で政治を操っているとまで言われている狸。（これは私の主観）

そんな夫を影から支えて　いなし元ハリウッド大女優の母。

結婚後夫の下で経営学を学んだ彼女はその面白さに目覚め、今では自分で夫とか関係のない会社を興し奮闘中である。大財閥の社長夫人として役目など放置状態だ。ちなみに現在の国籍は日本だが、祖國はフランスである。何でも学生時代にアメリカの映画監督にスカウトされて、渡米したんだとか。父とどういう経緯で出会ったかは興味がないので聞いていない。

次に、私と9歳離れている長男。

職種は父の跡継ぎ、某難関大学を14歳で飛び級して卒業してしまった天才。IQが物凄く高いらしいが…これもまた興味がないので知らない。今はヨーロッパにある企業らを任されており、日々あちこち飛び回っている…らしい。

長男の下は次男。

ハーフだと一見してわかる甘つたるい容姿を持っているこの兄は、日本でトップアイドルとして活躍中。最近では母の血を受け継いだのか俳優にまでチャレンジしている。その人気はうなぎのぼりで、何でもコンサートチケットをオーバークションに出すと元値の十倍以上の値がつくとかつかないとかつかないと。どこまでが本当か検討もつかないが、取り敢えずファンが多い。

そして最後の家族は、年子の妹。

キャラメル色のふわふわとした髪が特徴の都内有名お嬢様高校に通う女子高生である。兄たちと違つてこれといった活動をしていないのだが、何故か崇拜者が多い。私を除く家族全員がこの子を溺愛していて、我が家は妹を中心に廻っているといつても過言ではないだろう。まあ本人は至つて呑氣者（いや、天然か？）なので、それを悪用して人様をどうこうしようとはしないが。

以上が、我が家に関するインターネットで簡単に調べれば出てくるデータである。

祖父母とは同居していないので、（だって母方は外国在住だし）最近の典型的な核家族である。簡単に言えば6人家族。兄妹が4人もいるなんて、日本の少子化を考えれば多いほうなのかな？まあ、どうでもいいけど。ここまで聞けば、この色んな意味でど派手な家族の長女である私もさぞすごい人物なんぢやないかと思う人も居たかもしぬないけど、ノンノン。

私、櫻坂透佳は。

19歳、引きこもり。現在、部屋から一步も出ないだけでなく、ろくな家族とも顔を合わせていないのです。……まあ、仕方がないと

言えば仕方がないんだけどね。だつてそうでしょ？

- - - - - 一日の大半を、異世界で過ごしているんだから。

+ + + + + +

こちらの世界 インフォリアーディナ（発音が難しいので覚えるのに苦労した）に来てしまったのは今から6年前。事故だったのか、それとも自意識過剰で言つてしまつば世界に呼ばれたのか。定かじやないけど、中学校の下校の途中で行き成り目の前が真っ暗闇になつたと思えば周りの風景が変わつていた。

みんなは想像できる？

突然自分の置かれている状況が激変して、尚且つ見たこともない景色が目に飛び込んできた時の恐怖を。よく異世界トリップの物語でそんな場面が出てくるけど、所詮は作り話だ。冷静でなんていられる訳がない。月は2つどころか6つもあるし、変なフワフワした物（後でわかつた事だつたけど精霊だつた）があちこちで浮かんでいるし。

何より！！

目の前に、そりゃあもう今まで見たことがないようなデカイ生き物がどんつと構えてこいつを見てたりすれば。誰だつて悲鳴を上げるでしょ！あの時の恐怖は今でも覚えている。ほんとーに、ほんとーに怖かった。

今思い出せば笑い話で済んじゃう話だけど、その時は事情とかも分らなかつたし、何より竜つていう存在 자체はファンタジー上の空想物だと思ってたから。もう慣れたけどね。

で、その場で気絶してしまつた私だけど、目覚めてからは現実を受け入れるしかなくて色々と努力した。ええ、自分でも自画自賛してしまうほど！竜とか精霊みたいな不思議生物（この世界では普通らしいけど）とは精神の中での会話が出来たからいいけど、異世界人相

手にはそれが通用しない。よつて、語学を習得することから始まつた。

それから、世界の常識、生きていくための防衛術や何やらを必死で勉強して…。

二年くらいたつた頃には生きていけるに問題ないまでになったかな。あ、ちなみに異世界に飛んで一番初めに出会ったのが竜だったって言つのは、別に特別な意味はなかつたらしい。彼ら（不思議生物たちね）が言つには、仲間で酒盛りをしている最中に突然私が目の前に現れたんだとか。

簡単に言えば、自分たちはこっちの世界に来た理由なんて何も知らないよ、ってこと。

元の世界に帰れる方法はあつさりと見つかつたから、帰ろうと思えば直にでも出来たんだけど、現代の生活に疲れを感じていた私はこっちの世界の方が面白いと感じて居座ることにしたわけ。

もちろん、一度帰つて家族や周りに疑われないようにな（だつて失踪届けとか出されたら面倒だし）色々と工作したけど。一人で生活が出来るようになるまでの面倒は、竜たちと一緒に酒盛りしていた正体不明のおじさんが見てくれた。

最初は変な趣味とか持つてるんじゃないかつて怪しんけど、特にこれといった変な動作はなかつたし、一緒に生活していくうちに根は良い人だつて事がわかつたから今では義理の親とも言える存在になつてゐる。よく考えれば私つてラッキーだつたかもね。下手したら獸とかに襲われて死んでたかもしれないし。最悪の場合餓死してたかな？

……やばい。本当に感謝しなきや。ありがと、おじさん！

完璧に異世界人になれるまで生活した場は深い深い森の中だつた。普通の人間が住む場所までは「——くす——く離れていて、何でも落^下しなければいけないんだとか。

あ、落^下っていうのは文字通り落ちていかなきやいけないつて事。今でもよくわかつていな^いんだけど、あの森は世界の空に浮かぶ島

に存在していく、人間は誰も近寄ることが出来ないんだって。

16歳になつた私は、おじさんにこの世界を旅してみたいってお願ひした。だって、勿体無いと思わない？見たこともない感じたこともないものに出会つて。最初の心構えさえあれば、来たときみたいに氣絶しないしさ。

身を守る為の体術や魔術もおじさんに教えてもらつたからある程度使えるようになれたし、何より私に懐いたなつちゃん（ふわふわした精靈の一種で、狼と虎を足して割つた感じの子。ちなみに名前はナシュー）もついてくれるつて言うし。

これはもう旅するしかないでしょ！って事で、おじさんに一瞬で人間の住む大陸まで移動できる手段を教えてもらつて、（だつて落下するとか普通に無理だし）私の冒険は始まつたのです。

時々里帰り（あ、森の方ね）するために大陸から空に浮かぶ島まで移動する手段もついて教えてもらつたんだけど。これに関しては、絶対に例え親しくなつた人にも教えちゃダメだつて言われた。何でかなつて思つたんだけど…意外に自分は人見知りなんだつて本人が言つてて、住処を他人には知られたくないから。

更に竜とか精靈は珍しくて捕らえようとする邪な人間もいるから、用心のためにとも言つてた。うん、こんな理由なら納得できるよね。

+ + + + +

ここまでが今から4年前の出来事。

今現在の私はと言つて…へ、子供が一人、ついでにお腹の中に一児目を妊娠してたりします。

すごーく話が飛んじやつて申し訳ないんだけど、旅先で出会つたあいつと何をとち狂つたのか結婚しちゃつて今じゃ子持ちの母になつちゃつたつて訳。向こうの世界じゃ明らかに若い母親よね。

こっちの世界じゃ割かし普通っぽいけど…まあ、こんな事考えても仕方がないか。しかも初めての子を身籠つてから知つたことなんだ

けど やつ、こと私の旦那は本名はエルフアード・ライツ・イーダ（以下略）っていう長つたらしい名前を持つた大國の家出王子だつたらしい。

あの時は本当に切れたね。だつて意味わかんなかったし、何よりずっと黙つてたあいつがムカついてムカついて仕方がなかつた。今じや立派に王太子妃を務めていますとも！－！あ。今の訂正。昨日まで、立派に務めていましたとも！－！

今現在はやつの態度にいい加減堪忍袋の緒が切れたので昔のあいつみたいに子供を連れて家出中です。普通だつたら危ないからつて子供を置いていくかもしだれないと、私からしたらそんなこと有り得ない！－！こんな可愛くて天使みたいな子を置いていくなんて絶対に無理。

妊娠中の身だから危険だつて思われるかも知れないけど、家出先はおじさんの所だし。危険度ゼロ、むしろ絶対安全ね。なんでそこまで言いきれるのかつて言われたらそれまでなんだけど、何となく本能で感じるの。あそこは、この世界で一番平和な場所だつて。

おじさんに連絡を取つたら子供たちも連れてつていひつて言つてくれたし。あいつが反省して態度を変えるまで絶対に帰らない！精々一人虚しく生活すればいいのよ。ああ、出て行く時のやつの態度！今思い出してもムカつく！－！

「あんた、いい加減にしなさいよ！何で私が謝らなきゃいけないのよ！－！」

「勝手に勘違いしたのはお前だからだろ？」「

「はあ／＼つ！－？何意味わからんないこと言つてんのよ！明らかに悪いのは美女にテレテレしてたあんたでしょ－！」の浮氣者！－！

「はあ。だから違うと言つているだろ？

「なんで溜息なんかついてるのよ！しかも違つて何？私はしかとこの田で見たんだからね、決定的瞬間を！－！」

「……もうこれ以上言い争つても堂々巡りだ。お前の愚痴はあと

で聞いてやるから、執務室から出ていい。政務に集中できない」「…………なつなつ何ですって~~~~~つつつ……！」

とまあ、こんな感じだった訳ですよ。ほんとーに、ほんとーっにムカつく奴よね。はらわたが煮えくり返りそう……こいつなつたら持久戦。これでもかつて程、長い間帰つてやらないんだから。

+ + + + +

「なあ、トーカ。なんかその話を聞くと、お前の旦那が可哀相じゃないか？」

「はあ！？ なに這つてんのよおじわん。可哀相なのは私のほうでしょ……」

「しかしだなあ。これは明らかにトーカの勘違……」

「あああああっそっだ。これを機にあっちの世界にも戻りひづ。お父さんたちにも子供たちの事を教えてあげたいし。この可愛さを見ればイチ口口間違いなしじゃね！」

「おーい、聞いてるかー？」

「やうとなればいろいろと筋書きを用意しないと。弓きこもりの娘に行き成り子供がいるのって分つたら説明を求めてくるだろひつ」

「もしもーし」

「ちよつと、なつぢやん……いつうち来て……私と一緒に良い筋書きを考えよ」

「もしもーし……」

「ちよつとおじさん、さつきから何独り言つてるの。そんな暇があるんだつたら一諸に考えて。あ、その龍一あんたもいつちに来て～」

+ + + + +

未だに気づかれていない、おじさんこと、この世界の神様は。どこのまでも我が道を行く異世界の元養い子に半ば呆れつつ、苦笑いをした。

ああ、今日も賑やかだな、と。

1・異世界での体験記、あることは…？（後書き）

この小説はイーハトーヴが前で運営している小説サイトに掲載している短編です。

MYパソコンが使えないなつちやつたんで、現在別のパソコンを使って連載します。

詳しくはまた書いつと 思います。
では

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4426e/>

異世界での体験記、あるいは...？

2010年10月12日11時43分発行